

業務速報

N O . 5 6 4

2 0 0 6 . 4 . 4

J R 東海 労働 組合

発行 伊藤 明男

編集 斉藤 厚志

18年度の休日出勤数は、1人2泊行路

「平成18年度要員計画」業務委員会

4月4日、「平成18年度要員計画」についての業務委員会を開催しました。

平成13年度から平成17年度末までの「時代に適合した業務運営体制の整備」が終了し、平成18年度の新たな要員計画が示されました。

主な内容は、基準人員は14,750人（△500）、社員数は20,200人（△150）、システム化・省力化で△30、関連会社の能力活用で△10、出向予定数約200人、採用実績は843人（+58）、定年退職774人、その他退職275人、乗務員養成数は、在来線運転士約90人、新幹線運転士約50人、在来線車掌約180人、新幹線車掌約120人、乗務員から駅への異動約60人です。（詳細は会社資料を参照してください）

本部は、「5年間の『時代に適合した業務運営体制の整備』の総括はどうか」「休日出勤数を明らかにすること」などを主張しました。

「時代に適合した業務運営体制の整備」の総括を明らかにすること。

組合：平成13年度から実施してきた「時代に適合した業務運営体制の整備」が平成17年度で終了したが、会社としての総括はどうか。

会社：「時代に適合した業務運営体制の整備」は、平成13年度から関連会社、高齢者を活用した多様な就労形態の選択により雇用問題の解決と経営体質の強化を目指して取り組んできた。関連会社等の能力の活用やシステム化・省力化などは直実に実施してきた。

組合：平成13年度スタート時に平成17年度末までのそれぞれの施策の人数を明らかにしている。目標ではなく、あくまでもイメージであると会社は言っているが、その数値からする評価はどうか。

会社：いま言われたように数値は目標ではない。

組合：これまでも機会がある度に議論はしてきたが、専任社員は5年間で約1,000人としている。しかし、この5年間で採用された専任社員は200人にも達していない。目標ではなくイメージと言うが、あまりにもかけ離れているのではないか。

会社：そのことについてはこれまでも議論をしているが、数値はイメージであり目標ではない。

組合：本日、平成18年度の要員計画が示されたが、「時代に適合した業務運営体制の整備」が終了して今後の要員計画はどのように考えているのか。

会社：すでに相当程度の効率化、外注化を進めてきており、当面は大規模な効率化・

外注化は実施しないと考えている。ただし、効率化等は常に追求をしていく。
組合：これ以上の効率化は必要ないと考えている。

平成18年度の休日出勤数は一人2行路

組合：本日、要員と乗務員養成数が明らかになったが、今後の休日出勤数はどうなるのか。

会社：平成18年度の休日出勤数は、年間一人2泊行路であり公平性をもって指定する。
平成17年度の休日出勤の実績は、2月までだが一人4泊行路となっている。

組合：公平性とはなにか。

会社：たとえば一人が多くならないようにするということ。2泊には指定と希望も入れた数値である。

組合：希望が多くなれば指定がなくなることもあるのか。

会社：希望はどうなるかはわからない。

組合：一方的な指定はやめること。

組合：在来線の運転士が昨年に比べて70人少なくなっているが何故か。

会社：運転士になる母体の車掌が少なくなっているからである。

組合：乗務員から駅に異動するのが約60人となっているが、新幹線と在来線の内訳と1回目はJ R採用だけだったが今回はJ N R採用も異動するのか明らかにすること。

会社：地方で示す。

以 上

**平成18年度の休日出勤数が明らかになりました。
一人2泊行路とこれまでと比べれば明らかに少なくなっています。しかし、まだゼロとはなっていません。休日出勤を解消するために、適正な要員確保に向けてがんばりましょう！**